

「新・やまがた農業人」紹介

川井大輔さん

【出身地】静岡県 【就農前の職業】自 営

【就農年度】平成26年度（H24年4月から独立就農者
育成研修で2年間研修）

【経営概要】水稲（もち米と飼料用米が中心）2ha、
そば 6ha、養鶏 約400羽



東日本大震災で就農を決断

市民農園の野菜づくりで農業に興味を持った私は、次第に農業を2番目の職業候補として考えるようになりました。

妻が山形県出身ということもあって、平成23年1月に東京で開催された「新・農業人フェア」で、やまがた農業支援センターと西川町のブースを訪問。一旦、就農に心が傾いたものの、子供が3人いる境遇を考えると不安があり、諦めかけていました。

そんな矢先、東日本大震災が発生。被災地支援に行った私は、本業の電気工事よりも、水や食料がずっと重要な実態を目の当たりにして、食料を生産する農業に就くことを決断しました。

経営の中心をなしている養鶏は、ちょっとしたことで卵を産まなくなったり、時には死んでしまったりと、生き物ならではの難しさがありますが、3年後を目途に500～600羽まで規模拡大したいと考えています。

地元JAの方の紹介で取得できた鶏舎は月山を望む高台にあり、ここでの農作業は、何よりも生きがいを感じさせてくれます。

< これから就農を目指す人へのアドバイス >

どんな農業をするかは、幅広く見て回ってから決めたほうが良いと思います。一度取り掛かると後戻りは難しいからです。また、就農研修仲間と交流を続けると、遊休機械の情報が入ったりして有益です。